

# 実践のまとめ（第2学年 英語科）

柏崎市立第一中学校 教諭 坂井 駿祐

## 1 研究テーマ

### 他者への配慮を意識しながら発話を行うための自己調整能力の育成

## 2 研究テーマについて

### (1) テーマ設定の意図

新学習指導要領では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる」ことが目標として記されている。その際に必要な考え方として、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」があげられている。そして、聞き手、読み手、話し手、書き手などの他者に配慮しながらコミュニケーションを行うことも重要であるとされている。

本校の生徒の実態として、コミュニケーションを苦手とする生徒が多かったり、他者への関心がうすく、自分の身の回りで起こっていることに関して自分事として捉える意識が低かったりする生徒が多い。

以上のことから、英語科の授業の中でのコミュニケーションを通して、相手の考えていることや求めていることは何なのかを考えることをテーマとした。フィードバックや振り返りを繰り返すことで自己調整を図り、生徒が他者とのやり取りや自分の発話をより良いものへと再構築していくことを目指す。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① 多様なフィードバックや振り返りの方法

これまで授業の中でも行ってきた教師によるフィードバックや、授業の終わりの紙面による振り返りだけでなく、生徒同士のフィードバックや、ICTを活用した多様な振り返りを通して、多面的な視点で自己調整を図る。

#### ② 段階的な活動

スモールトークやメモ作成での内容の整理、ペアやグループ編成時の人間関係や話すことの得意不得意を考慮し、さらには発表の範囲を徐々に広げていくなどして、段階的に生徒の活動を進めていく。

### (3) 研究テーマに関わる評価

#### ① 活動中の様子を見取り

#### ② 活動後の自己評価による数値

#### ③ パフォーマンスの披露や動画の提出を見取っていくことによる長期的な評価

## 3 単元と指導計画

### (1) 単元名

Work Experience (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂)

## (2) 単元（題材）の目標

- ・何かの仕方や人やものの様子などを表現する。
- ・職場体験や働くことの大切さについて読んだり、話したりする。
- ・場面を想定したスキット活動に、意欲的に取り組む。

## (3) 単元の評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|--|--|
| how to ~、look+形容詞、第4文型の意味や働きについて理解し、話したり書いたりする技能を身に付けている。 | 登場人物の体験をほかの人に伝えるために、職場体験の様子についての会話文の概要や要点を捉えている。 | 自分の発話の音声を聞いたり動画を見たりして、相手が知っていることや知らないことを考慮し、わかりやすく伝えようとしている。 |

## (4) 単元の指導計画と評価計画（全9時間、本時8／9時間）

| 次（時）     | 学習内容   | 学習活動   | 主な評価基準と方法  |
|----------|--|--|--|
| 1<br>(6) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・how to ~の理解</li> <li>・look+形容詞の理解</li> <li>・二重目的語をとる動詞の理解</li> <li>・本文の読解</li> <li>・帯活動による企業紹介の練習</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎やり方を知っているものを説明しよう</li> <li>◎人や物の様子を伝えよう</li> <li>◎提供するものを説明しよう</li> <li>◎本文の読解、Q&amp;A</li> <li>◎実在する企業について、コンセプトや業務内容を分かりやすく伝えよう</li> </ul> | <b>知識・技能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読み、Q&amp;Aに正しく答えることができる</li> </ul>   |
| 2<br>(3) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・起業学習について、相手にわかりやすく説明する</li> <li>・単元の振り返り</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎相手に、起業学習で自分たちが起ち上げた企業について相手の目線に立って説明しよう</li> </ul>   | <b>思考・判断・表現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェスチャーなど、相手の立場に立って必要な技能を使用できる</li> </ul> <b>主体的に取り組む態度</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを見て、粘り強く英語で伝えようとする</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【動画】</b></p> |

## 4 単元と生徒

### (1) 単元について

2年生は総合的な学習の時間の中で起業学習として、自分たちで起業し、社会の課題を解決するためのビジネスを起こす活動をしている。本単元では職場体験が取り上げられており、登場人物が体験した内容や気持ちを伝えている。それらを起業学習と重ね合わせ、他者に自分たちの企業がもつビジョンや業務内容を分かりやすく伝えようとする態度を育成したい。本課では不定詞を使った「～の仕方」、一般動詞look、becomeを使った「～のように見える」「～になる」、第4文型を使った「～に…を一する」を英語で表現する力と、それらを使って積極的に相手に伝えようとする態度を育成することがねらいである。

また、これらの不定詞や文型を使って、生徒が事実や自分の思いを表現することができるようにしたい。

さらに、自分の起業学習の内容を相手に伝えるためには、情報を整理することが必要になるほか、相手にわかりやすい言葉を選んで適切に伝えることが必要である。ペアやグループでフィードバックをし合うことで、文化の違う相手に対してどこから説明しなければいけないのかなどの他者意識をもって発話を繰り返す意識を育成することが研究テーマに迫る手段となる。

## (2) 生徒の実態

- ・既習事項、既有経験やその定着の状況について

2年生は起業学習を行い、働くことについて考えているため、本文の内容を読解したり、帯活動として相手にわかりやすく伝える活動を繰り返したりすることで考えを深めていくことをねらいとする。

- ・学習方法や学習形態の経験について

ペアやグループなど、多様な形態で言語活動を行ってきた。その中で苦手な生徒に教えながら活動をする姿も見られる。

- ・期待する姿

自分たちの起業学習について、外国人の文化や生活している環境などを考慮して、わかりやすく説明しようとする。ペアからのアドバイスや、録音、動画など様々なフィードバックを通して、相手に伝わるようにするためにはどうしたらよいかを主体的に考え、実践する姿を期待する。

## 5 本時の展開（令和5年10月31日実施）

### (1) ねらい

本当にその説明・表現で相手に伝わるか考え、相手にとってわかりやすい発表をする

【思・判・表】

### (2) 展開の構想

起業学習について発表する練習をペアで行う。iPadを使って説明している動画を撮影し、内容面や非言語面についてのフィードバックや振り返りを通して、相手意識をもって発表できるように練習する。

### (3) 展開

| 時間<br>(分)                               | ◎学習活動   | ・教師の働き掛け<br>●予想される生徒の反応   | □評価 ○支援 ◇留意点           |
|---|---|---|------------------------|
| 導入<br>10分                               | ◎帯活動<br>・私の企業は…<br>・ペアのアドバイス（フィードバック）<br>・スタッキングシート記入<br><br>◎目標の提示 | ・聞き手に「日本の文化や生活環境を全く知らない外国人になりきって聞く」ことを意識させる<br><br>●We sell (make)…<br>●Our concept is …<br>●（単語のみ） | ◇机間巡視をし、発話が継続できない生徒を支援 |
| 本当にその説明・表現で相手に伝わるか考え、相手にとってわかりやすい発表をしよう |   |   |                        |

|                   |   |  |   |
|-------------------|---|--|---|
| <p>展開<br/>35分</p> | <p>◎モデルスピーチを2種類確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A：良い例 B：悪い例</li> <li>・どちらがわかりやすいか、それはなぜかをペアで話し合う</li> <li>・クラスでシェアする</li> </ul> <p>◎発表練習1回目（ペアがiPadで撮影）</p> <p>◎撮影した動画を確認して、気になるところをワークシートに記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で記入</li> <li>・ペアでシェア</li> <li>・クラス全体でシェア</li> </ul> <p>◎発表練習2回目（ペアがiPadで撮影）</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの動画がわかりやすいか、それはなぜかを考えながら見させる</li> <li>●知らないものの名前が出てきて、それが何なのかイメージできなかった</li> <li>●ジェスチャーがあった</li> <li>●becauseで理由があった</li> <li>●気持ちが説明されていた</li> <li>●エピソードがあってリアルだった</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オクリンクを使用して動画を撮影させる</li> <li>・気になるところをワークシートに記入させる</li> <li>●固有名詞の説明をした方がよい</li> <li>●ジェスチャーをつけた方がわかりやすい</li> <li>●相手に問いかけを入れる</li> <li>●カメラ目線を続けたほうがよい</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修正した内容でオクリンクを使用して動画を撮影させる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇オクリンクで2本の動画を送り、見返せるようにする</li> <li>◇机間巡視の中で見取り、意図的に生徒を指名する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で難しい場合、ペアから始めてもよいことを伝える</li> <li>◇机間巡視の中で見取り、意図的に生徒を指名する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>□2回目の動画で、ワークシートに記入した内容を取り入れている【動画】</li> </ul> |
| <p>終末<br/>5分</p>  | <p>◎2回目の動画を見て自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入</li> <li>・動画を2本とも提出</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入させる</li> <li>●相手の背景を考慮することができた</li> <li>・オクリンクを使用して動画を2本教師に提出する</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□自己評価・記述内容【ワークシート】</li> </ul>  |

#### (4) 評価

##### 【思考・判断・表現】

|               |                              |
|---------------|------------------------------|
| 十分満足できる (A)   | ワークシートに記入したことが2回目の練習で実践できている |
| おおむね満足できる (B) | 内容や表現に変化が見られる                |

##### 【主体的に取り組む態度】

|               |                                    |
|---------------|------------------------------------|
| 十分満足できる (A)   | 振り返りの記述から、他者意識をもって発表練習ができたことがうかがえる |
| おおむね満足できる (B) | 振り返りを記入している                        |

## 6 実践を振り返って

### (1) 授業の実際（指導の実際）

#### ① 教師と伝える相手のチャット画面を提示し、目的・場面・状況を明確にする（第1時）

第1時に目的・場面を確認し、生徒が何のために活動するのかを確認し、動機づけを行った。伝える相手が教師の実際の知り合いであることや、実際に海外で暮らしている人物であることもあり、生徒は興味をもっている様子が見えた。

相手に伝える内容総合的な学習の時間で十分に話し合っている内容であり、生徒一人一人が内容を把握していることに加え、資料を作成して持っているため、スピーチのためのメモ作成にはスムーズに取り掛かることができた。

#### ② 相手意識をもって発話することに注意して練習する（第2時）

第2時には、前時に作成したメモを見ながら、自分の企業について英語で説明する練習を行った。初めにモデルスピーチを2種類視聴し、どちらの方が聞き手にとってわかりやすい紹介となっているか、またそう判断した理由を考えた。そうすることで、自分が発話をする際に意識すべきことは何なのかを考えられる時間を設けた。

学習指導要領解説（2018）では、「言語は通常、人とのかかわりの中で用いられるため、他者を尊重し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながらコミュニケーションを図ることが求められる。」とある。今回は「話すこと[発表]」のタスクなので、一方的に情報を伝達することとなるが、伝える相手は、自分たちの企業についての予備知識がない状態であることを意識する必要がある。

加えて、学習指導要領解説の中に「『聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら』コミュニケーションを図ることが大切であり、その一つとして相手の外国語の文化的背景によって『配慮』の仕方も異なってくるのが考えられる」と述べられている。日本では当たり前と思われている事業や名称も、外国に住む相手にとっては初めての情報であるかもしれないということや、具体的なイメージ等を伝える必要があるかもしれないことを考慮し、相手の立場に立って伝える情報を精査したり、伝え方を工夫したりする姿を期待した。

授業後の振り返りの記述を見ると、「どのような方法で伝えるか」の視点に着目して練習を行った生徒が多かった。

（図1）に対して、どのような情報を伝えるかという視点で考えられた生徒は少なかった。このような状況になってしまった原因として、モデルスピーチが考えられる。2種類のモデルスピーチは伝える情報と、ノンバーバルな表現の2点に違いをもたらせた。表現方法の違いの方が気づきやすかったため、ジェスチャーや

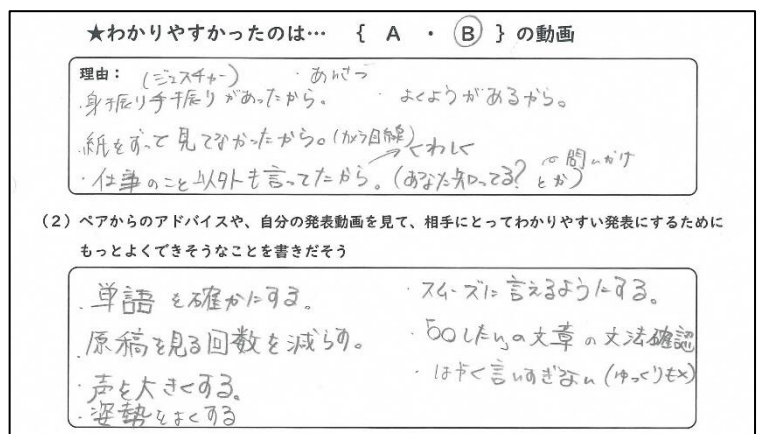


図1

アイコンタクトを意識する生徒が多かったのだと考えられる。2つの動画を見て気付いた点を共有する中で、内容面にもさらに着目できるように支援する必要がある。パフォーマンステストなどを行う機会はこれまでもあったが、自分の発話の様子を客観的に見る機

会はほとんど設定してこなかったため、恥ずかしさを感じる生徒もいた。その反面、自分の伝え方が適切かどうかを改めて考えることができる生徒が多かった。

### ③ メモを見ながら企業紹介をするビデオを撮影する（第3時）

第3時にテスト本番と称してそれぞれが動画を撮影した。ペアになって互いに動画を撮影し合ったり、アドバイスをし合ったりしながら行った。前時と比べても、自分の発話を見返すことに抵抗が少なくなり、何度も挑戦する中でより良い発表をつくり上げようとする姿勢が見られた。

英語科の授業内の発表の2週間後に、総合的な学習の時間内でのプレゼンテーションが行われ、すべての生徒が積極的に参加・発表することができた。

## (2) 研究テーマに関わって

本研究のテーマである「他者への配慮を意識しながら発話を行うための自己調整力の育成」を目指して、以下の2つの手立てを講じた。

### ① 多様なフィードバックや振り返りの方法

本単元のゴールである企業説明の練習を行うにあたり、帯活動や練習の中で様々な種類のフィードバックを行った。教師からのアドバイスや、生徒同士のアドバイス、加えて自分の発話を録音して聞いたり、撮影した動画を見たりして客観的に自らの発話の内容や話す態度を確認した。戸惑う生徒も見受けられたが、何度か経験するうちに抵抗もなくなり、積極的に参加できる生徒が増えていった。振り返り等の記述からは、特にデリバリーの面で気付きを得て、自分の発話に取り入れることができた生徒が多く見られた。

### ② 段階的な活動

ゴールとなるタスクを単元の初めに示し、類似した活動を帯活動の中で繰り返し行った。活動の後にフィードバックを行ったり、中間指導をしたりする中で、本番で使用できそうな表現や単語を生徒がプリントに蓄積していった。

本実践を行った第2学年は、人前で発表することを苦手と感じている生徒がととも多いため、今回はiPadでの撮影という形で行った。しかし、今後の学習の中で発表する範囲を広げていきたい。

## (3) 今後の課題

### ① 目的・場面・状況の設定と、生徒がそれらを意識するための効果的な働きかけ

本単元では、「実際に海外に住んでおり、日本のことにあまり詳しくない」という人物を対象に発表する場面を設定し、単元の初めに目的・場面・状況を伝えた。しかし、その後、第1次の授業で確認したり、意識したりする機会を設けることができなかった。単元を貫く意識として、様々な場面で目的や相手について確認することを忘れずに進めていきたい。1コマのみでなく、単元全体を見て授業を構成し、計画的に組み立てていく。

### ② 内容面における相手意識

本単元の課題では、ジェスチャーやアイコンタクトなどのノンバーバルの技術を駆使して相手にとってわかりやすい発表にしようと心掛けた生徒が多かった。しかし相手意識とは内容面においても意識するべきものである。今後の指導をとおり、生徒が内容面において相手意識をもって伝える情報を整理したり、発話内容を精査したりする力を育成したい。

## <参考・引用文献>

文部科学省、『中学校学習指導要領解説 外国語編』。開隆堂出版株式会社。2018